

2020 年度



Globe 実践をふり返って

東川町立東川第二小学校

今年度の重点

1 カリキュラムの見直し

- (1) Globe 授業にかかわる指導方法、評価方法の充実
- (2) Communication 要素の評価 (CAN-DO リスト) の充実

2 国際教育の接続について

- (1) Local/Global 要素の系統性の確立
- (2) 教科横断的指導の充実

上記の重点を受けて、本校では校内推進プランを進めてきた。

I 研修テーマ

『かかわり合い、考え、行動する子の育成』 (二小の重点目標)

II 研修内容

- 1 前年度の改善点、二小としての課題を基にした日常の授業実践
 - ・課題設定や評価について深めていく。
 - ・二小としての基本的な学習の流れ、統一して取り組む内容・活動、課題やまとめについて更なる共通理解を図り、実践していく。
- 2 実践研究会の公開授業に向けた協働体制で臨む授業づくり
 - ・二小としての授業スタイルを確立させていく。
 - ・実践研究会へ向けての活動が中心となる一方で、学校及び個人としての課題へ挙げられているものへの対応をどうするかが課題である。
- 3 改善点・課題解決方法の検証のための校内研究授業・公開授業
 - ・各学年でのおさえが明確になっていない中での授業を進めることが難しかった。
 - ・「Can-Do」リストの基づくカリキュラムの見直し(町全体の系統性を含め)が必要である。

ア. ローカル要素・グローバル要素の指導方法、評価方法の充実

イ. ローカル要素・グローバル要素の系統性を確立させるための指導の工夫

ウ. 児童の深い学びを実現させるための他教科や総合的な学習との教科横断的な指導

エ. 各学年の Can-do list をおさえた指導

オ. 児童が成長や次の学びに意欲が確かめられるまとめや振り返り活動の充実

1. Globe 授業にかかわって

6 学年「Globe 6 野生動物の気持ちになって考えよう～We all live on the earth.～」

「単元デザインと指導内容」

○「単元デザイン」について

- ・単元の構成で立場を変えて動物を紹介するというのが、きちんと構文などが使われる仕組みになっていた。
- ・単元後半で写真家の竹田津実氏の講話を聴く時間があつた。子どもたちとも対話し、動物から学ぼうという考え方ができ教師も児童も成長することができた。



○「指導内容」について

プレゼンテーションやクイズ等の活動について

- ・A L T が作ったパワーポイントの見本を使って、子どもたちがすぐに作ることができた。
- ・クイズをやったときには、自分がその動物になりきってできたのが良かった。
- ・他の子どもたちの発表したことなどにも興味をもって聞き、他の人の発表した単語なども使用してできていた。
- ・カードの裏にある程度、「こうやって答えたら良いよ」というのは書いてある。本時に至るまでのA L T とのコミュニケーション活動で身についた言葉が生かされていたと思う。
- ・学級づくりの中で、クイズを日本語バージョンでやっていた。そういう中で培ったことが生かされていたと思う。

○Communication 要素について

- ・Communication 要素では、夏季研でカードを作成したほうがよいのではという指摘があり、それを授業で生かすことができて良かった。

○Local 要素について

- ・動物の立場になって、動物のすごい能力などを知って動物を取り巻く自然環境について考えるところまでたどり着くことができた。
- ・エコプランを提案するには至らなかったが、環境保護がどうしても必要なのかは理解できたと思う。中学校段階（中1）で環境について学習するのでそこにつながれば良いのではないかなと思う。

地域人材の協力。東川在住の動物写真家とネイチャーガイドから野生動物、自然についての講話を聴く。



可愛いエゾリスだが
噛む力は強力。手を
出すと指を引きちぎ
られることも。



体には鉛の銃弾が入っ
ている白鳥。仲間にも
毛づくろいをしてい
て、毛づくろいをして
できないうちに弱って
いる。



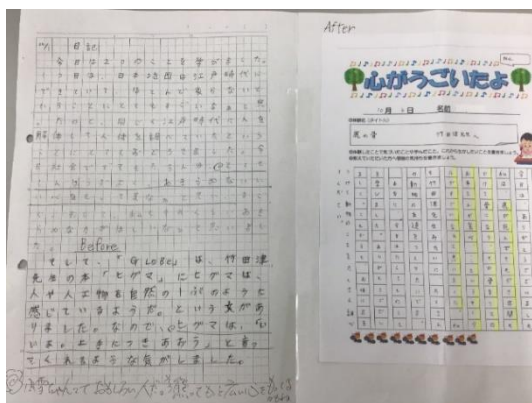
実際の鹿の角を触ってみる。
動物は「可愛い」だけではない。リアルな動物の世界のことを学び、人間との関わりについて考えた。

○教科横断的な視点について

- ・本単元を学習中、タイムリーだったのだが「これ理科で学習した食物連鎖だよ」と言っていた。逆に理科の授業で「フードチェーンだよ」と言っていた。こういう教科のつながりがあるのが Globe の良さだと思った。
- ・子どもたち自身は、キトウシとかに住んでいる子もおり、野生動物に関心のある子が多い。また、実際にシカやモモンガなどを見ている。

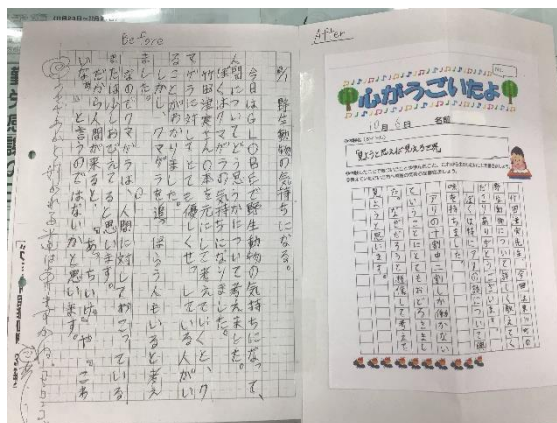
○振り返り活動の充実

毎時間の振り返りシートの振り返りの他にも、単元途中でのゲストの前後での振り返りをしている。事前にゲストの著作を読んでわかったこと、知ったこと、疑問を自分の言葉でまとめた。講話後にあらためてわかったこと、思ったこと、考えたことを記述し、ゲストにお礼の手紙として送付した。



「鹿が死んで7年間かけて骨になっていく。その骨をリスのお母さんが食べて栄養にする。すごいなと思った。」

「アリの10割中、2割しか働かないということにとってもおどろきました。なぜだろうと想像して考えてみようと思います。」



2. 国際教育の接続について

○受動的学習から能動的学習へ

2 学年「Globe 4 好きな物を伝えよう！聞いてみよう！」と「Globe 5 できることを伝えよう！聞いてみよう！」を合わせて構成した。2 回にわたり CIR をゲストとして招き、遊びをとおして交流し、違いや共通点などを発見した。1 回目は、自己紹介から始まり、ゲスト二人の出身国の遊びを楽しんだ。2 回目は、前回のお礼として同じゲストに図工で作成した日本のおもちゃを紹介し、受動的な学習から能動的な学習へとつなげた。

系統として本単元とつながっているのが4 学年の「Let's play cards.楽しもう。伝えよう。日本の遊び。世界の遊び。」である。

日韓のすごろくの違いや、「おりがみ」は韓国やベトナムにもあることを発見した。再訪問の際には、自発的にゲストの国の言葉で挨拶する児童もみられた。

韓国の「すごろく」



日本の「すごろく」



「くぎさし」をゲストに教える



4 学年の「Globe 2 Let's play cards.楽しもう。伝えよう。日本の遊び。世界の遊び。」おなじみの「缶蹴り」と全員が初めての「くぎさし」をゲスト二人に紹介した。どうやったら楽しさが伝わるか？休み時間も使い、相手意識をもって準備に取り組んだ。子どもたち自身が充分遊びを楽しむことで遊びのイメージをもつことができ、面白さを伝えたいという気持ちが生まれた。

○どうやったら楽しさが伝わるか？

「楽しさを伝えたい。」という必然性をもってスタートしたが、説明を日本語から英語にすると文章が長くなってしまった。ゲストにわかりやすく「伝える」にはどうしたらよいか？子どもたちは、「長い英語は短く。」「ジェスチャーで伝える。」など、担任や ALT からヒントをもらいながら決めていった。



○Local から Global への広がり

日本の遊びを教え、ゲストに外国の遊びを紹介してもらい、日本の遊びとの共通点を発見した。

ポーランド版
「だるまさんが転んだ」



3. 今年度の成果と課題

- ア. ローカル要素・グローバル要素の指導方法、評価方法の充実
- イ. ローカル要素・グローバル要素の系統性を確立させるための指導の工夫
- ウ. 児童の深い学びを実現させるための他教科や総合的な学習との教科横断的な指導
- エ. 各学年の Can-do list をおさえた指導
- オ. 児童が成長や次の学びに意欲が確かめられるまとめや振り返り活動の充実

成果

○Communication コミュニケーション要素 …【エ】

発達段階に応じた「話す（対話）」「話す（発表）」「聞く」「書く（中学年以上）」力がついてきている。低学年では、担任やALTとのやりとりを通して伝わる楽しさを実感したり、中学年以上では職員室に訪問してインタビュー活動を行うなどして、仲間以外との対話を楽しんだり、色々な年代の人の考えを受容したりできるようになってきている。



○Local 要素の単元の充実…【ア, イ】

Jets や地域人材の協力などを得て文化交流や専門性の高い講話をいただき児童の思考を深めることができた。

○系統性のつながり…【イ】

遊びを軸にした文化交流など、学年間でのつながりを意識した単元構成ができた。

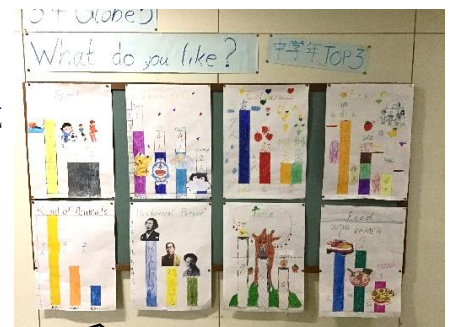
日本の遊び→世界の遊びのように Local から Global へ広がっている。

○振り返り活動の充実…【オ】

毎時間の振り返りだけでなく、ゲスト来校後など、単元のメインとなる活動ごとに振り返りを行った。

○他教科との教科横断的な指導…【ウ】

理科, 算数, 図工, 生活科などの教科との教科横断的な指導ができた。



3 学年「Globe 5 What do you like? 何が好き？」好きなものを子ども同士でインタビューし、結果を算数で習った棒グラフで表した。

課題

●Global 要素の充実…【ア, イ】

- ・ゲストとの交流=異文化理解（知識・理解）だけでなく、外国出身者から見た東川・日本のいいところや日本に取り入れたい外国のよさなど、子どもたち自身が考えて発表したり（思考・判断）、次に取り組みたいことへの意欲（学びに向かう人間性）に繋げていけるような単元デザインが必要なのではないか。
- ・Local 要素がメインで、Global 要素が少ない単元もある。ただ、学年の単元をトータルで見ても

Local 要素/Global 要素が網羅できればよいのかとも考える。

●他教科との教科横断的な指導…【ウ】

- ・子どもたち自身が、自分たちの生活に根ざしていることが見えるとさらに良いのではないか。理科の授業で動物について触れているが、小学校は教科の枠を超えて、つながりを生むことができるので、そこをも少しアピールした方が良いかもしれない。

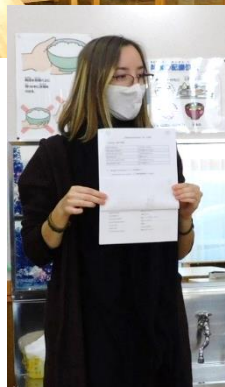
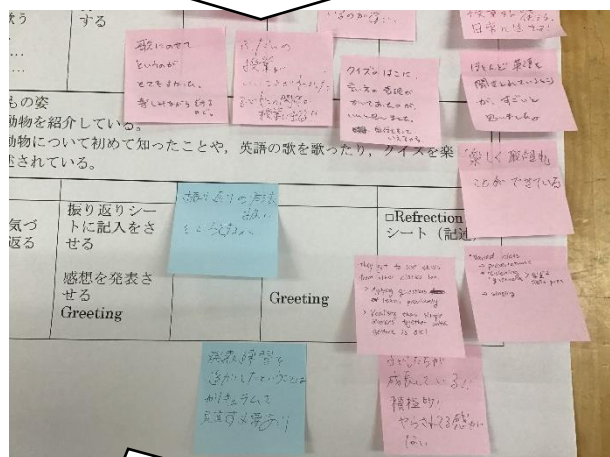
●「単元デザイン」について…【ア】

- ・単元のゴールの提示の仕方について

1 時間目にお手本などを見せてゴールを提示すると児童の思考のひろがり进行を妨げてしまうかもしれない。今後どのようにしていくか？

10月2日校内研修 先生方で KJ 法を使い授業の振り返り
8/25 4 学年「Globe 2 Let's play cards.楽しもう。伝えよう。
日本の遊び。世界の遊び。」
9/29 6 学年「Globe 6 野生動物の気持ちになって考えよう
～We all live on the earth.～」

11月25日校内研修
ALT の協力を得てミニ学習会
Classroom English 講座



- ・児童…日本の文化を知っている。比較して文化を知れる。
- ・世界で起きている問題について知っている。
- ・Globe で世界が広がった。H29, 世界せまかったのでは？
- ・英語を使えるようになりたい。
- ・やる気ある。必要性も感じている。
- ・自分の考えを相手に伝える。
- ・Globe の成果があった。誰かに伝える機会。